

【基本施策の目的】

市民一人ひとり生涯にわたってさまざまな学習活動に取り組み、その成果をより良い地域社会づくりに活かすことで、地域力の向上につなげます。

【基本施策の今後の優先度】

判定区分	基本施策における課題の状況及び対応策
大	基本施策の指標値は、概ね横ばいの動きであるため、現状の取り組みを改善しつつ継続的に進めていく必要があるものとする。また、平成30年3月に文部科学省の中央教育審議会から出された「第3期教育振興基本計画について」の答申では、基本的な方針の一つとして「生涯学び、活躍できる環境を整える」という方針が掲げられるなど、本施策は同一分野内においても特に重要な施策と考える。そのような中、本施策には市民や議会からも早期の供用開始が望まれている新図書館建設事業を含んでおり、市民の主体的な学びの重要な拠点として生涯学習の推進に大きく寄与するものであるため、資源投入量を増加することが必要であり、経営資源の配分の優先度は大と判断した。

【指標の分析】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、今後の対応
生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合	%	実績	15.7	9.9	8.1	32.6	28.5	自らの身近な活動を生涯学習活動だと認識していないことも要因と考えられるが、全体として30代から50代の働く世代の割合が低い。	平成30年度から市公民館の講座開催事業がこまき市民文化財団へ移行されるが、引き続き各市民センターと連携を取りながら、市民ニーズや社会的課題に対応した講座を開催し、学習に取り組める環境を提供する。
		目指す方向性	↗						
生涯学習活動による成果を地域社会に活かしている市民の割合	%	実績	40.2	49.3	56.3	36.4	38.9	昨年度からはほぼ横ばいの動きである。60代以上の世代の割合が高いことがわかる。子育て世代に対しては、子どもをとおして、学校や地域とつながる施策を展開する必要がある。	こまなびサロンがこまき市民文化財団へ移行後についても、各市民センターと連携して市民の生涯学習の相談機能の充実を図る。また、PTA活動等を支援し、子育て世代に対してアプローチするとともに、引き続き、地域3あい活動を実施し、地域協議会などと連携し、世代間交流をとおしてつながりを創出していく。
		目指す方向性	↗						
市民の図書館に対する満足度	%	実績	55.4	55.4	44.3	47.0	48.3	実績値は少しずつ改善しているが、インターネットなど他メディアの躍進による読書離れ、建物の老朽化や狭隘化により現図書館は市民ニーズに応えきれないことが要因である。	施設面の改善については現図書館では限界があるが、蔵書数や構成、職員の対応等サービス面での充実を図ることにより満足度の向上を目指す。
		目指す方向性	↗						

【施策推進事業の考え方】

<p>経常事業</p>	<p>削減に関する具体的な考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部公民館施設管理事業のうち、中部公民館管理運営委託料の平成31年度予算見積書が指定管理者より提出された段階で、人件費や光熱水費等を除く事業等の内容の精査を行い、217千円の削減を行う。</li> <li>・図書等購入事業については、資料の購入と除籍を計画的に行い、充実した蔵書とするため、毎年安定した予算の確保が必要であると考えているが、現図書館への図書等購入を全体的に控えることで、限界を迎えている蔵書数を適切な数とする。</li> <li>・視聴覚ライブラリー事業については、一定の役割は終えつつあると考えているので、新規事業資料の購入は中止した。また、デジタル映像編集ソフト操作講習会を廃止することで、60千円の講師謝礼の削減を図る。</li> </ul>
<p>実施計画事業</p>	<p>資源投入の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新図書館建設事業は、現図書館の建物の老朽化や狭隘化といった課題に対応する為に小牧駅西A街区に新たに図書館を建設する事業である。この事業は、ラピオの(仮称)こども未来館施設整備事業、小牧駅周辺整備事業と併せて中心市街地における市の施策として特に重要な事業であると考えており、また市民や議会からも早期に新図書館の供用開始を望む声があることから資源投入量を増加することが必要と考えている。</li> <li>・市民会館整備事業・管理事業については、市公民館3階の喫茶室が平成29年12月末に閉鎖され、今後の使用方法等について検討をしてきたが、市公民館入口から目にしやすい場所という特徴を活かすとともに、市公民館の機能の充実を図るための改修を実施するため、資源投入量を増加することが必要と考えている。</li> </ul>

展開方向1	名称	学習の機会を提供します							方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見直し(予測)、事務事業等の見直し内容
	目的	○日常的に生涯学習活動に取り組んでいる市民を増やします。								
	所管課	生涯学習課								
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度			
市民講座が開かれていることを知っている市民の割合	%	実績	78.3	74.4	74.8	73.3	72.3	認知度の低い年代は、10代、20代であり、全体的には比較的高い数値で推移している。	平成30年度から情報ガイドの発行が、市公民館のこまなびサロンの運営とともにこまき市民文化財団へ移行する。市広報のほか、文化財団のホームページやフェイスブックなどを活用し、市民に学習の機会が身近にあることを周知し生涯学習活動への扉を開く。	
		目指す方向性	↗							
市民講座受講者数	人	実績	1,947	1,836	2,062	1,911	2,209	公民館全体で開催される講座回数が増加したことに伴い、受講者数が増加した。	平成30年度から、市公民館のこまなびサロンの運営がこまき市民文化財団へ移行する。引き続き各市民センターと市民ニーズ等の情報を共有するとともに、連携して情報発信を行う。	
		目指す方向性	↗							
市民講座を受講して、社会貢献活動してみたいと思った市民の割合	%	実績	26 (H26年度)		26	21	18.1	受講生の多くが、自らの趣味・教養を深めること、限られた期間で気軽に学習することを受講の動機にしていることが要因と思われる。	個人での活動を促すことには、限界があるため、講座終了後の自主グループの活動を支援するとともに、こまき市民文化財団及び各市民センターと連携して、生涯学習講師やボランティアの養成などの方法を検討する。	
		目指す方向性	↗							
展開方向2	名称	学習活動を支援します							方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見直し(予測)、事務事業等の見直し内容
	目的	○学習活動に必要な情報を得やすくします。 ○より良い地域社会づくりに向けた市民主体の地域活動を支援します。 ○安全で快適な学習活動の場を確保します。								
	所管課	生涯学習課								
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度			
こまなびサロンを知っている市民の割合	%	実績	24.5	26.6	29.3	26.8	32.1	認知度については、ほぼ横ばいの動きである。生涯学習の相談窓口として認知度の向上は、市民の生涯学習活動の推進に影響を持つと思われる。	平成30年度よりこまなびサロンの運営が、こまき市民文化財団に移行するが、文化財団の情報誌やホームページなどさまざまな媒体を活用して周知を図っていく。	
		目指す方向性	↗							

生涯学習に関する相談件数	件	実績	152	198	167	167	370	<p>平成28年度までは、こまなびサロンでの相談件数のみを計上していたが、各市民センターの相談件数を計上したため増加した。</p>	<p>平成30年度よりこまなびサロンの運営が、こまき市民文化財団に移行するが、引き続き、こまなびサロンを中心に、各市民センターと連携し、生涯学習の相談窓口があることを周知し、生涯学習活動へつなげていく。</p>
		目指す方向性	↗						
社会活動の支援や指導に関わってみたいと思う市民の割合	%	実績	36.1	35.6	32.9	28.6	30.8	<p>数値については、ほぼ横ばいの動きである。生涯学習活動から社会活動の支援等へ振り向けることは、個人の生涯学習活動の動機等にもよることから、多様なアプローチが必要である。</p>	<p>知識や技術があっても人前に立つことに不安を感じる方や、経験してみたら上手くできず、悩んでいる方等に、生涯学習人材育成講座として、地域で活動するために必要なスキルやコミュニケーションのとり方などを身につける講座を開催していく。</p>
		目指す方向性	↗						
展開方向3	名称	図書館サービスを充実します							
	目的	<p>○図書館を生涯学習活動の拠点として、より多くの市民が利用できるようにします。</p> <p>○こどもの頃から読書の習慣を身に付け、読書により豊かな心が育まれるよう支援します。</p>							
	所管課	図書館							
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
市民1人あたりの図書などの年間貸出冊数	冊	実績	7	6.6	6.7	6.5	6.4	<p>全世代の読書離れの傾向が強いため年間貸出冊数の減少につながった。</p>	<p>蔵書の鮮度を保ち魅力ある蔵書構成とすることや、図書館まで足を運べない子どものために積極的な配本事業を展開することにより貸出冊数の向上を図る。</p>
		目指す方向性	↗						
1年以内に図書館を訪れたことがある市民の割合	%	実績	36.1	33.5	34.2	32.3	33.0	<p>基準年より低いものの、近年は、33%前後で推移している。図書コーナーの充実等サービス面の向上に努めたが、現図書館は貸出中心の図書館であり、市民にとって居心地の良い空間とはなっていないためと考える。</p>	<p>市民ニーズに応えた蔵書構成や図書コーナーの充実を図るとともに、HP、広報の他、新聞掲載を依頼するなど図書館のPRを行う。</p>
		目指す方向性	↗						
おはなし会などの参加人数	人	実績	7,375	7,382	7,022	6,532	6,165	<p>読書離れや、子どもの数の減少により参加人数が減少傾向である。</p>	<p>読み聞かせボランティアさんと連携し、魅力あるおはなし会やイベントを企画・開催する。</p>
		目指す方向性	↗						